



ファンドマネージャー 秋野 充成の AKINO REPORT



代表取締役社長 秋野充成

 いちよしアセットマネジメント

FM 今週のポイント (9月16日)

*国内株式市場は堅調な相場展開が続いています。12日には日経平均株価が一時、44800円水準を突破、45000円が視野に入ってきました（終値は44768.12円：週間ベースで約4%上昇）。この上昇の背景は、石破首相退陣表明による次期新政権のリフレ政策期待（自民党総裁選は9月22日公示、10月4日投開票：小泉氏、高市氏、小林氏、林氏、茂木氏の5人の争い）もありますが、好調な米景気持続と、FRBによる断続的な利下げ期待を背景としたゴルディロックスシナリオの持続にあります。その意味で、先週、注目された指標が、10日の8月米国PPIです。前月比▲0.1%と市場予想を下回り、コアPPIも前月比▲0.1%とヘッドライン同様、4カ月ぶりに下落に転じました（前年比ではヘッドラインが+2.6%、コアは+2.8%とともに前月から伸びが大きく鈍化）。8月のPPIの弱さの主因は最終需要サービスで、前月比▲0.2%と4月以来の下落となりました⇒卸売業及び小売業の marginsを確認すると、最終需要貿易サービスが同▲1.7%と統計開始以来最大の下落となったことに起因しています。企業が関税の引き上げ分を利益率で吸収していることが解かります（関税の価格転嫁による物価上昇に歯止め）。そして11日のCPI。前月比は+0.4%と市場予想+0.3%を上回り、前年比では+2.9%と市場予想と一致しました。コアCPIは前月比+0.3%、前年比+3.1%と、何れも市場予想と一致しました。注目された、コアサービスは前月比鈍化/前年比7月並みと抑制（+0.4→+0.3%/+3.6%）された水準となりました。PPI、CPIが共に加速せず、インフレ期待を抑制させたことで、FRBによる断続的な利下げ期待の確度が高まり、ゴルディロックスシナリオの持続性が維持されました。

*そして、今週の注目はFOMC、そして日銀金融政策決定会合です。9月12日のCME FedWatchによると、9月FOMCでの50bp利下げの確率は3.6%（前日6.1%）、25bp利下げの確率は96.4%となっています。また、25年内の利下げ幅が100bpとなる確率は2.8%、75bpとなる確率は75.7%、50bpとなる確率は20.4%です。25年内3回利下げが引き続き市場のメインシナリオです。16日～17日のFOMCでは9か月ぶりの利下げ再開（25bp）は、ほぼ確実と言えます。マーケットの関心は、経済見通しで示す、今後の利下げペースです（ドツツ）。今年、3回（6月時点では2回）、来年、2回（6月時点では1回：OISでは3回が予想されている）を想定しています。26年に3%まで低下すれば、中立金利を下回る可能性もでてきます⇒マーケットのゴルディロックスシナリオ観を一段と高めることになります。一方で、日銀ですが（18日～19日決定会合）、政策金利の据え置きが想定されます。9月2日の講演で氷見野副総裁が「影響はこれから及んでくる」と述べたことから、米国関税の日本経済への影響については、利上げ判断に足るデータの蓄積が進んだとは考えられません。石破後継政権の政策の方向性、安定性を見極める必要もあります。会合後の記者会見で、植田総裁がタカ派的な発言をする可能性も低いと思われます。

*中銀ウィークを経て、一時的な出尽くし売りから短期的な調整となる可能性もありますが、ゴルディロックスシナリオの確度が高まること、日銀の利上げが当面無いことによる安心感（緩やかな円安継続）、石破後継政権の政策・安定期待（現状よりも強固な連立の枠組み形成）により、国内株式市場の上昇は継続するものと考えています。9月中の日経平均株価46000円接近も、十分に想定されます。

裏面をご覧ください。

『 重要な注意事項 』

- この資料は、市場の現状の説明資料の一部としていちよしアセットマネジメントが作成し、いちよし証券がいちよしアセットマネジメントとの営業代理契約に基づいて提供するものです。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられております。
- この資料は、いちよしアセットマネジメントが信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて同社により作成されたものですが、過去から将来にわたってその正確性、完全性を保証するものではありません。
- この資料は、投資の参考となる情報の提供を目的としたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。
- この資料に掲載されたデータ・グラフ等は過去の実績またはシミュレーションであり、将来の成果を示唆、あるいは保証するものではありません。また、記載された見解等の内容はすべて作成時点でのいちよしアセットマネジメントの判断であり、今後予告なく変更されることがあります。
- 投資一任業務による有価証券投資は、株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資運用によって発生する損益はすべてお客様に帰属します。したがって、預貯金とは異なり投資元本が保証されているものではなく、一定の運用成果を保証するものでもありません。

○諸経費および投資リスクについて

- 投資顧問料については、契約資産に対して年金料率で最大0.4536%(税込み)の報酬をいただくこととなります。また、契約により所定の成功報酬をいただく場合があります。その他売買手数料等の間接的な経費がかかりますが、経費の総額については委託した証券会社により手数料率等が異なるため、上限額等を表示することができません。
- お客様のために行う取引については、株式、新株予約権付社債、公社債等の有価証券に投資しますので、国内外の経済・政治情勢、金利変動、発行体の業績や財務状況等の変化の影響により、投資した有価証券の価格が下落し、損失が生じるおそれ(外国証券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれ)があります。
- 信用取引やデリバティブ取引を行う場合は、差し入れた証拠金等の金額以上の取引を行う可能性があるため、原資産となる有価証券や指数等の価格変動により、差し入れた証拠金等を上回る損失が生じるおそれがあります。また、デリバティブ取引等の額の証拠金等の額に対する比率は投資方針や市場の動向等により変化するため、その比率を事前に示すことができません。
- 諸経費およびリスクについての詳細は、契約締結前交付書面をよくご覧ください。

商 号 等： いちよしアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号
加入協会： 一般社団法人 投資信託協会
一般社団法人 日本投資顧問業協会